

# 新坂東市

～自然との調和～

筑波研究学園専門学校  
建築環境学科  
建築設計デザインコース

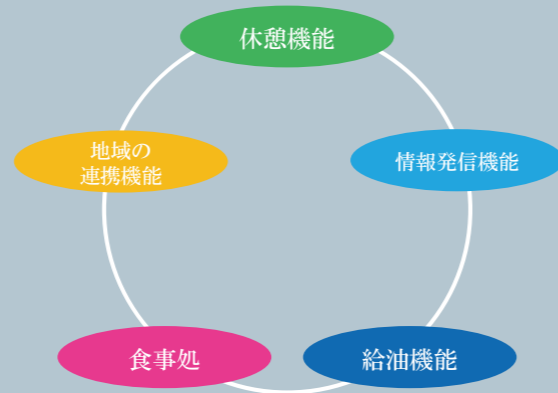
加納直樹  
太田暖菜  
滝本啓太  
遠藤光之良  
坂場駿

# Concept

日本は第二次世界大戦以降、モータリゼーションが進展しています。私達の住む茨城県は道路実延長が北海道に続いて第2位であることから、車が生活必需品となっている県であることがわかります。そこで私たちはハイウェイオアシスのようなドライバーが休憩できる施設の需要が増加しているのではないかと考えました。休憩機能を充実させることはもちろん、他地域から訪れた方と地元の方が交流することができ、地域の魅力も伝えることのできるハイウェイオアシスを提案します。



ハイウェイオアシスなどの休憩施設には休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能が必要とされており、加えて給油施設、食事処が求められていることがわかりました。休憩機能とは24時間利用可能で清潔なトイレ、広大な駐車場などの快適に過ごすことのできる施設が持つ機能の事です。地域の連携機能とは近隣の道の駅同士での連絡を強化することにより、経営内容の改善、機能の補充もしあえるので、利用者に安心感と魅力を伝える効果があります。情報発信機能とは周辺の道路情報や地域の歴史、文化、観光地などを紹介する案内板や物産販売コーナーなどがあります。給油施設としてのガソリンスタンドは原則すべてのサービスエリアに設置されています。食事処はレストランやカフェなどの事を指しています。これらの機能による相乗効果から「地域とともに個性豊かな賑わいの場」を創出することが求められています。そして、私たちは情報発信機能があまり機能していないように感じたので、情報発信機能を重視した計画としました。



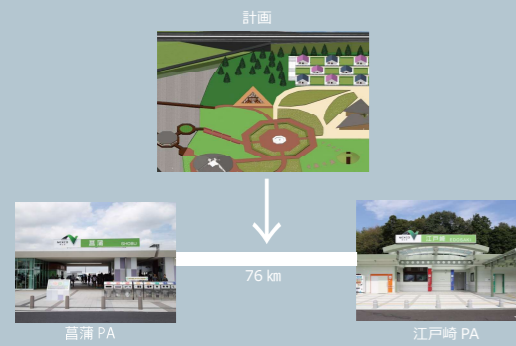
地域とともに個性豊かな賑わいの場

## テーマ選定理由

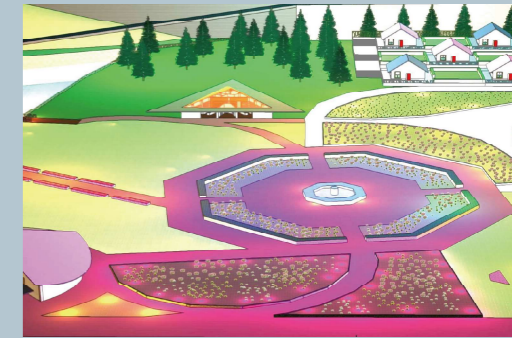
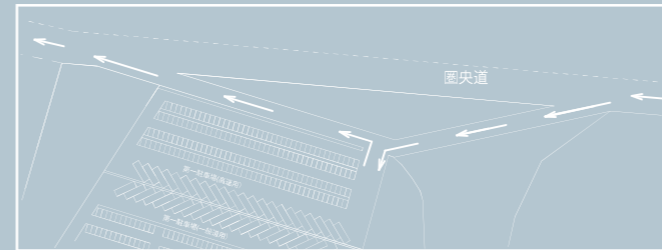
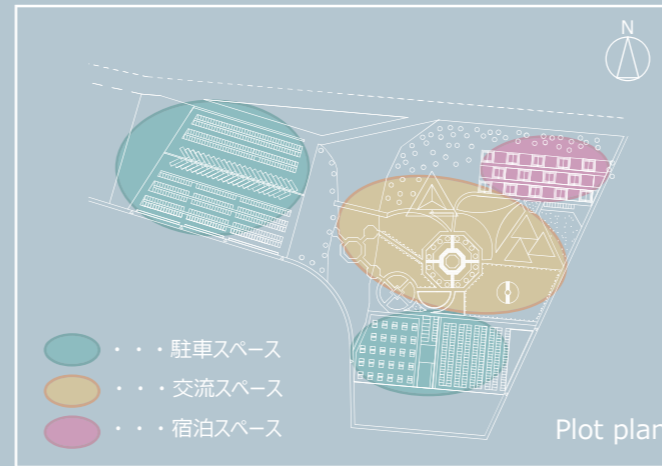
私たちの卒業研究のテーマは「新坂東市～自然との調和～」です。坂東市がこれからどんどん新しくなっていってほしいという願いが込められています。サブタイトルである「自然との調和」には建築物と自然の共存という意味が込められています。

# Location

私たちが選定した坂東市は茨城県の県西に位置しています。坂東市は農業や工業が盛んな地域であり、農作物や製品の輸送には圏央道が利用されることもあります。通常、パーキングエリアは約15km程度、サービスエリアは約50km程度の間隔をあけて計画することが目安とされていますが、菖蒲PAから江戸崎PA間の約76kmには休憩施設がありません。この区間はドライバーにとって負担が大きいのではないかと考え、ハイウェイオアシスを計画しました。

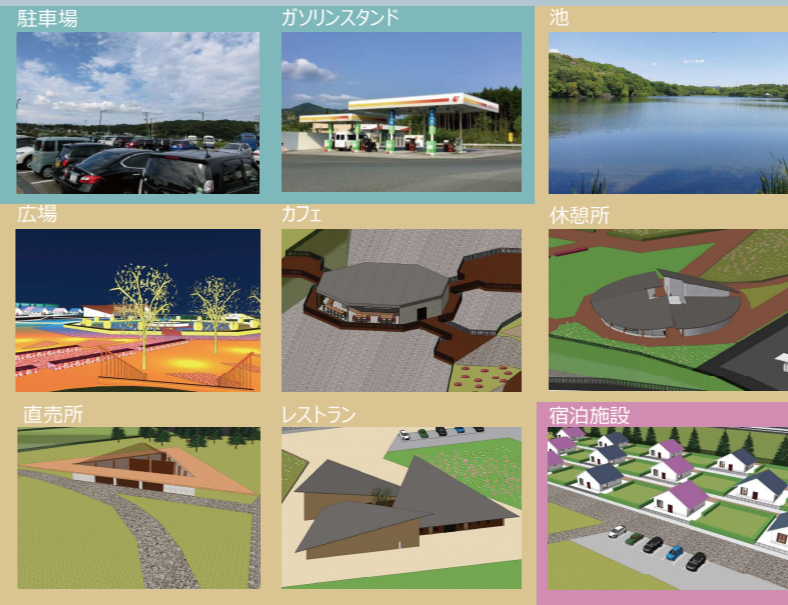


# Site planning



## 配置計画

このハイウェイオアシスは駐車スペース、交流スペース(カフェ、休憩所、直売所、レストラン)、宿泊スペース(宿泊施設)の3つのエリアに分かれており、これらの建築物が5つの機能を担っています。高速道路利用者と一般道路利用者の駐車場は明確に区別しています。駐車場は独立しているため、交通事故が起きるリスクを減らすことができます。イルミネーションも実施するので冬でも楽しむことができます。



広場に設けた噴水はこのハイウェイオアシスのシンボルのような役割を果たします。噴水広場には花が植えてあるので、春夏秋冬様々な景観を楽しむことができます。

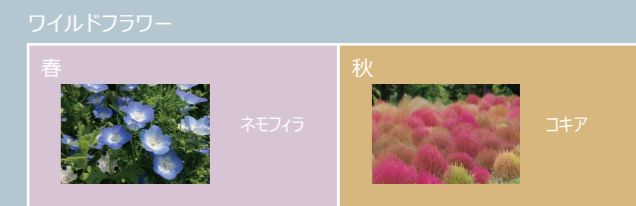
池を設けることによって、水生生物や植物の生命を育み、敷地内に自然を取り込みます。

ガソリンスタンドではガソリンを入れるだけでなく、車のメンテナンスも済ませることが可能です。

## 植栽計画

地域性を表現するもの  
坂東市や茨城県の木を植えることで地域性を表現し、施設に愛着を持たせました。また、季節の移り変わりを感じられるように花木や紅葉を楽しむことができる木を植えました。

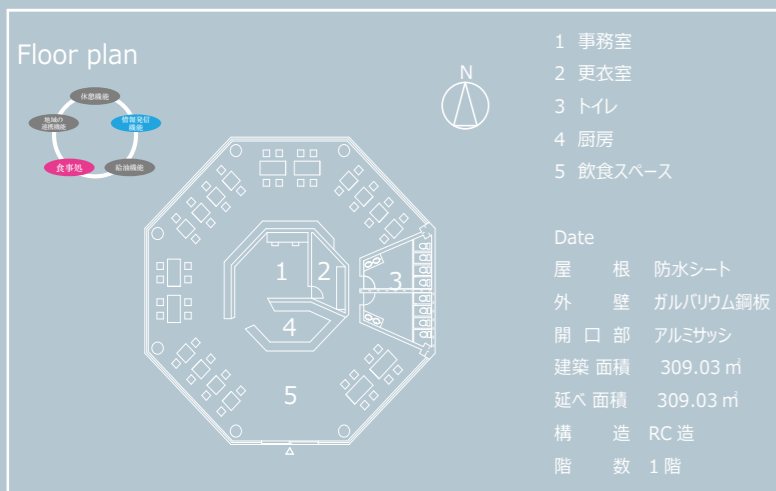
- 宿泊施設の北側 : チャノハナ・ケヤキ
- 広場 : バラ
- 噴水周辺 : 花壇・ウメ
- 第二駐車場の東側 : 花壇
- 丘 : ワイルドフラワー
- 直売所周辺 : 春のエリア
- 丘周辺 : 夏のエリア
- 第一駐車場周辺 : 秋のエリア
- 広場周辺 : 冬のエリア



# Cafe



## 平面計画



カフェは食事処と情報発信機能の役割を担っています。座席は全部で 48 席あります。中央に厨房があるので、利用者には調理中の首や香りを楽しんでいただくことができます。テイクアウトも可能なので、芝生広場で食事することもできます。窓が下についている場所もあるので、外からの視線が気になる方でも落ち着いて食事することができます。昼間は四季折々の変化を見せる花の広場を眺めることができ、夜はイルミネーションを見ることができるので、季節や時間を問わず、様々な景色を楽しむことができます。

# Restaurant



## 平面計画



レストランは食事処と情報発信機能の役割を担っています。レストランの入り口は狭い印象を与え、隠れ家のようなミステリアスな雰囲気を感じさせています。カウンター席とテーブル席を設けているので 1 人で訪れた方も大人数で訪れた方々も気軽に食事を楽しむことができます。店内からは中庭を眺めることができます。中庭の中心には大きな樹木を植えます。四季によって変化の中庭を楽しみながら食事することができます。室内には木の素材を多く使っているので、温もりを感じる空間となり、利用者へ上品で落ち着いた印象を与えます。

## 立面計画



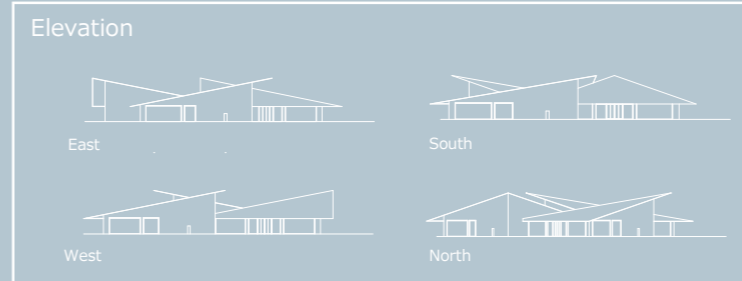
駐車場と敷地を繋ぐ橋の上にあるカフェは坂東市の壮大な自然を感じさせ、周辺の景色を楽しみながら食事することができます。8 角形にすることでどの方向から見ても特徴的な外観にしました。橋の中心に位置するため、駐車場から交流スペースに向かう利用者が気軽に立ち寄ることができ、疲れた体を癒すことができます。

## 「情報発信機能」



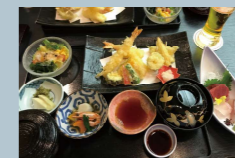
さし茶は日本で初めて海外に輸出された歴史ある日本茶として有名です。濃厚な香りとおくのある深い味わいが特徴です。このカフェではさし茶の美味しさを引き立たせる食事を提供します。

## 立面計画



全ての屋根を違う方向に向けることによって、外から見たときに 1 つ 1 つが独立しているように見えます。カーテンウォールを使用することで外から施設内の様子が伺えるため、入り口が軽減されます。軒高を高くし、屋根勾配を付けることによって室内に開放感を持たせ、レストランで食事している人が開放的な空間でゆっくりすることができます。

## 「情報発信機能」

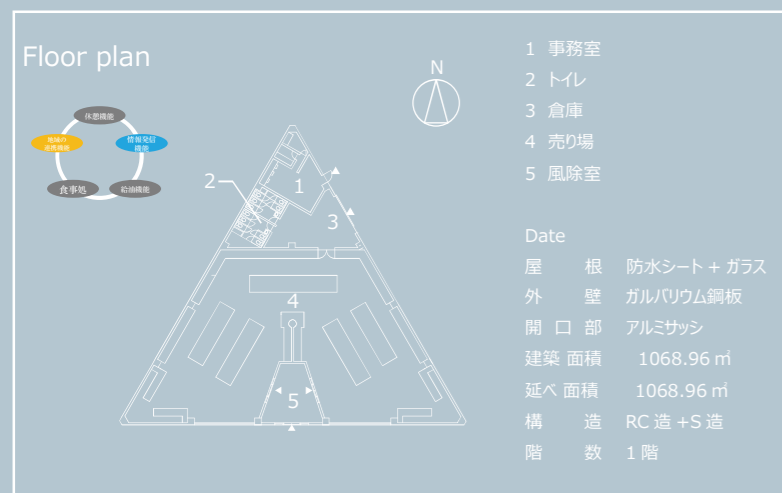


このレストランはそれぞれ和食、洋食、郷土料理を提供するレストランで構成されています。素材の味を楽しむことのできる和食、濃厚な味わいを楽しむことのできる洋食、坂東市の産物を活用した郷土料理を提供するので、利用者は気分によって好きなものを食べることができます。郷土料理店では味噌煮込みうどんや祝い鍋を中心に、地元で採れた食材をふんだんに使った食事を楽しむことができ、坂東市の魅力を発信します。

# Farmers market

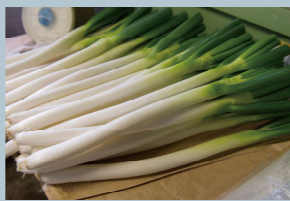


## 平面計画



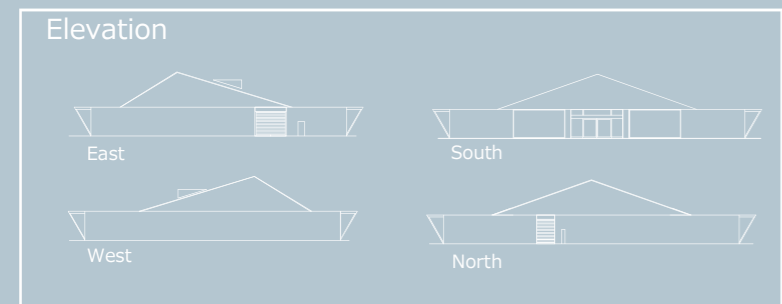
直売所は地域の連携機能と情報発信機能の役割を担っています。直売所には低価格で新鮮な農産物が並びます。産地や生産者がわかるので安心感があり、季節感を感じられる点が直売所の魅力です。また、地産地消へ取り組むことで環境負荷を軽減します。直売所の東側で育てられた農作物を販売するエリアとし、西側を茨城県で育てられた農作物やお土産などを販売するエリアとしました。出入口は1つなので導線が単純でわかりやすくなっています。事務室への入り口と倉庫への搬入口を近く配置することで商品が運ばれてきた際にすぐ対応できるようにしました。

## 「情報発信機能」



この直売所では坂東市の特産品であるレタスやネギ、白菜、さし茶などを中心に、茨城県で収穫された野菜を販売します。また、敷地内の宿泊施設に住む住人が家庭菜園を行い、そこで収穫した野菜も販売します。直売所を訪れた方に農村の魅力や地域資源の価値を発信します。

## 立面計画

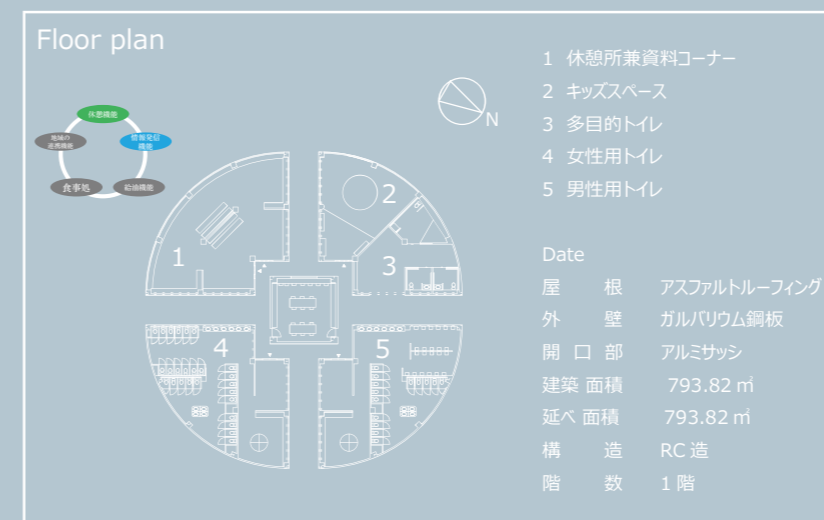


南側をはめ殺しの窓としているので、室内に太陽光を取り入れやすくなっています。また、天井に大きな天窗を設けることで、特徴的な外観となっています。従来の薄暗く閉鎖的なイメージの直売所とは大きく異なり、明るく開放的な空間となるよう計画しました。

# Restroom



## 平面計画



休憩所は休憩機能と情報発信機能の役割を担っています。訪れた利用者がトイレ休憩のみで帰ってしまうことを防ぐために休憩所も交流ゾーンに配置しました。通路は屋外通路とし、建物の中心には正方形の事務室を設けました。それによって休憩所兼資料コーナー、多目的トイレ、女性用トイレ、男性用トイレの4つのエリアに分けることができます。

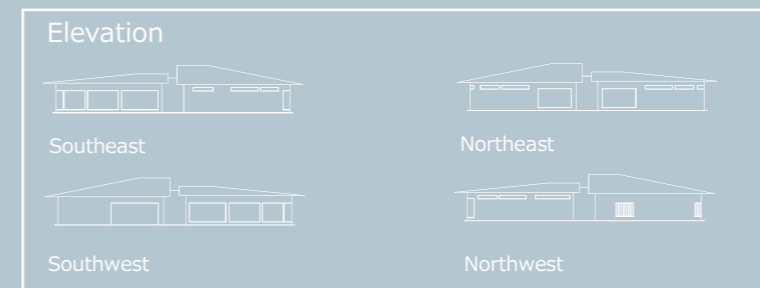


24時間利用可能で清潔なトイレがあるので、道路利用者や施設の利用者は快適に使用することができます。



キッズスペースを設けることで子どもをもつ家族も利用しやすくなっています。また、この空間で子ども同士の交流が生まれるだけでなく、保護者間での交流も深まると考えます。

## 立面計画



異なる軒高と勾配の屋根をかけることで、エリアを視覚的に分けることができ、訪れた利用者の印象に残る外観とすることができます。休憩所は大開口であるため、室内は明るく過ごしやすい空間となります。

## 「情報発信機能」

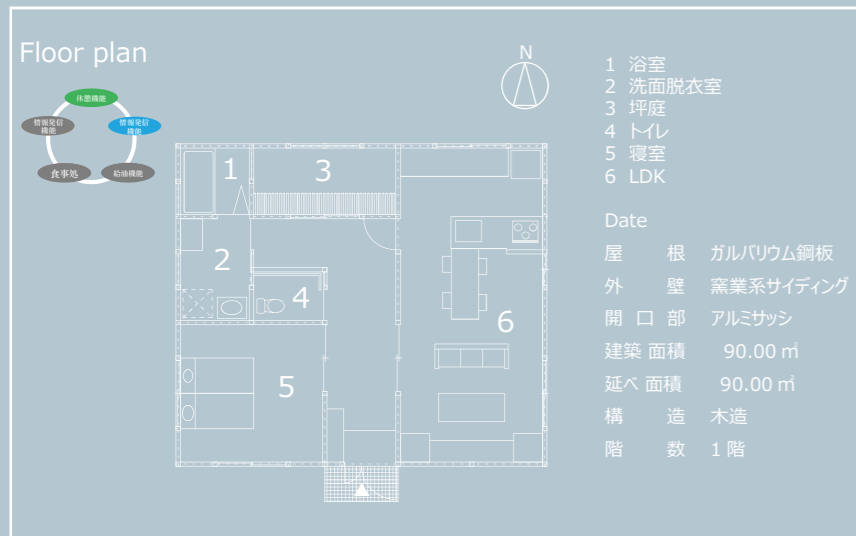


情報発信機能の1つとして休憩所に資料コーナーを設けました。休憩所に立ち寄った利用者は気になった資料を気軽に手に取ることができます。道路情報、観光情報、緊急医療情報などを提供します。坂東市やその周辺の地域の自然資源や歴史資源、イベント情報を中心に茨城県の観光情報などを発信することで休憩所に訪れた方に魅力を伝えます。

# Accommodation



## 平面計画



宿泊施設は休憩機能、情報発信機能の役割を担っています。他のハイウェイオアシスと差別化を図るために宿泊施設を計画しました。この施設は地域の連携機能と情報発信機能の役割を担っています。この施設では宿泊するだけでなく、田舎暮らしに興味がある方に仮移住体験をしていただくこともできます。LDKを36m<sup>2</sup>で計画したため、広々とした快適な居住空間となっています。宿泊施設内の坪庭を計画したので、風通しも良く、廊下に明かりをもららし、雨天時でも自然と触れ合うことができます。



## 配置計画

住宅を交互に配置し、1mの高低差をつけることによって、敷地内になるべく日光を取り入れられるように計画しました。また、この高低差によって、外部からの視線を気にすることなく過ごすことができます。広い庭は宿泊者が自由に活用ことができ、リラックススペースを作ったり、ガーデニングや農業体験を行ったりすることもできます。



宿泊施設の周辺には坂東市の木であるケヤキや坂東市の花であるチャノハナなどの花木を植えます周辺からの騒音を遮るだけでなく、坂東市の地域性や壮大な自然を表現します。

## 「情報発信機能」

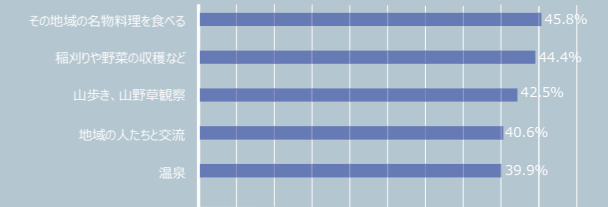
農林水産省の調査によると、農山漁村地域への定住願望は平成17年から平成26年で増加していることがわかります。この調査結果から男女ともに幅広い世代の方が田舎での暮らしに興味を持っていることがわかります。

農村漁村地域に定住してみたいという願望はあるか。

男性			女性		
	H17男性(%)	H26男性(%)		H17女性(%)	H26女性(%)
20代	34.6	47.4	20代	25.5	29.7
30代	17.1	34.8	30代	16.9	31.0
40代	18.3	39.0	40代	14.1	31.2
50代	38.2	40.7	50代	20.7	27.0
60代	25.0	37.8	60代	14.6	28.8

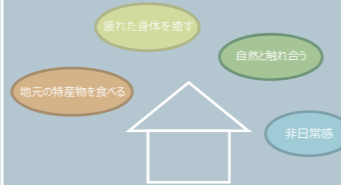
農山漁村地域に滞在する際、何をして過ごしたいかという調査の結果、「その地域の名物料理を食べる」、「野菜の収穫や稲刈りなどの農作業体験」、「山歩き」、「地域の人たちとの交流」など田舎ならではの体験に興味を示している人が多いことがわかります。

農村漁村地域に滞在中、何をして過ごしたいか。



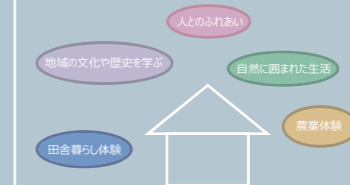
## 詳細計画

### 宿泊プラン



宿泊プランとは、ハイウェイオアシスに訪れた利用者が短期間滞在できるプランです。インターネットによる情報だけでなく、実際に来て、宿泊してもらうことで魅力を発信できます。

### 仮移住プラン



仮移住プランとは、田舎での暮らしに興味のある方が長期滞在できるプランです。田舎ならではの良さや宿泊しなければ知ることのできない魅力を発信することができます。



### 農業体験

収穫した農作物は、敷地内の直売所で販売することや、敷地内のレストランで調理をしてお客さんに提供することができます。



### 自然に囲まれた生活

都会の喧騒から離れてゆっくりと落ち着いた空間を過ごすことができます。



### 人との交流

田舎は都会に比べて、地元住民とのつながりや地域のコミュニティにおける交流が盛んであるため、人との繋がりの大切さを感じることができます。



### 歴史や伝統に触れる

坂東市内には数々の史跡が点在し、歴史ある場所となっています。滞在することで坂東市の歴史や伝統に直に触れることができます。

## まとめ

私たちはモータリゼーションが進む茨城県に着目し卒業研究を進めてきました。研究を進めていく中で、菖蒲パーキングエリアから江戸崎パーキングエリアの76km間には休憩施設が必要なることがわかりました。その結果、圏央道坂東インターチェンジ付近にハイウェイオアシスを計画しました。またハイウェイオアシスを調査していき、求められている機能を担った計画を行いました。そして私たちは、特に情報発信機能が重要だと感じ、宿泊施設の計画をしました。様々な体験をすることができる施設を充実させることによって、SNSに投稿されて少しずつ知名度が上がっていき、ハイウェイオアシスの情報発信機能を補い、強化し、坂東市の魅力も伝えることができるのではないかと考えました。

